本報告書を読む際の注意

本報告書は、世論調査の調査手法による回答内容や回収率の相違に関する情報を得ることを目的として、郵送法で実施する世論調査に加え、並行して試験的に面接法で内容の同じ調査を実施し、その結果を比較したものである。郵送調査と面接調査で、質問文や選択肢内容が異なる一部の質問については、本報告書では比較を行っていない。また、郵送調査の「無回答」は面接調査の「どちらともいえない」、「その他」、「わからない」を合わせた結果と比較している。

1　n は質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。なお、本報告書において特に数字を示していない n は、有効回収数である郵送調査:3,076 人、面接調査:1,714 人を示す。

2　標本誤差は回答者数（n）と得られた結果の比率によって異なるが、単純任意抽出法（無作為抽出）を仮定した場合の誤差（95%は信頼できる誤差の範囲）は下表のとおりである。

各回答の比率 ＼ n	10%（又は 90%）	20%（又は 80%）	30%（又は 70%）	40%（又は 60%）	50%
3,500	±1.0	±1.3	±1.5	±1.6	±1.7
3,000	±1.1	±1.4	±1.6	±1.8	±1.8
2,500	±1.2	±1.6	±1.8	±1.9	±2.0
2,000	±1.3	±1.8	±2.0	±2.1	±2.2
1,000	±1.9	±2.5	±2.8	±3.0	±3.1
500	±2.6	±3.5	±4.0	±4.3	±4.4
100	±5.9	±7.8	±9.0	±9.6	±9.8

なお、本調査のように層化２段抽出法による場合は標本誤差が若干増減することもある。
また、誤差には回答者の誤解などによる計算不能な非標本誤差もある。

3　質問の種類を示す記号は次のとおりである。

S.Q.：前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問（Sub-Question の略）。

M.A.：１回答者が２以上の回答をすることができる質問（Multiple Answers の略）。

〔回答票〕：回答の選択肢を列記した「回答票」を示して、その中から回答を選ばせる質問。

4　単位が%の結果数値は表章単位未満を四捨五入してあるので、内訳の合計が計に一致しないこともある。

5　比較表において使用する符号は次のとおりである。

M.T.：Multiple Total の略。１回答者が２以上の回答をすることができる質問のとき、M.T. は回答数の合計を回答者数（n）で割った比率であり、通常その値は 100%を超える。

0.0 ：表章単位に満たないが、回答者がいるもの

－ ：回答者がいないもの

↑,↓ ：郵送調査の結果が面接調査の結果より統計的に有意に高い場合は「↑」を、統計的に有意に低い場合は「↓」を表章する。

6　比較表において表章している都市規模の定義は次のとおりである。

大都市（東京都区部、政令指定都市）
中都市（人口20万人以上の市、人口10万人以上の市）
小都市（人口10万人未満の市）
町　村